



日本共産党北区議会議員  
**さがら としこ**  
区政レポート  
2011.8.26. NO.1005.

ご相談はお気軽に  
TEL とも **3905-0970**  
FAX さがらとしこ事務所  
赤羽北3-23-17  
(バス停「赤羽北3丁目」、メガシティ近く)  
日本共産党議員団  
区役所内 3908-7144  
<http://www.kitanet.ne.jp/~kyoukita/>

- 早いぞね。8月もあと少し。猛暑はウシやわらぎましたが、どうぞみなさん、体調に気をつけてお過ごし下さい。
- 私は、お盆休みを利用して福島県須賀川市と宮城県仙台市に行ってきました。途中、二本松の岳温泉にも寄って…。

### 義母の隣家も避難中

● 「今は、息子夫婦たちも、市の借り上げ住宅に避難中さ。家を建てかえたいが、まず、土をなんとかしなきゃ。測ってみたら、10マイクロバレルもあった…」と。私は、「0.0…0.10とかじゃないの?」と聞きかえしましたが、「ちがう。」とさっぱり。厳しい現実ぞす。

トウモロコシ10本ぞ298円  
大きな白桃14個ぞ2000円

● 店の中に白桃の箱が山積みです。お盆だというのに。田んぼの稲は、青々と勢よく育っていますが、お米となって流通できるのか。おばあちゃんのキュウイフルーツも大きくなってはいますが、食べてもいいのか?ぞす。



2011.8.13.  
須賀川 岩瀬村

# 子どもを守る。



記者会見する志位和夫委員長。右は笠井亮党原発・エネルギー問題対策委責任者 =11日、国会内

「放射能時代に入った…」と、作家の五木寛之氏。人ごとではなく、国民ひとりひとりに向われる生き方。

# 放射能汚染対策

## 徹底した調査・除染・健康管理を

### 日本共産党が提言を発表

日本共産党の志位和夫委員長は11日、国会内で記者会見し、「福島原発事故による放射能汚染から、子どもと国民の健康を守る対策を——徹底した調査、迅速な除染、完全な健康管理を求めると題する提言を発表しました(囲み参照)。

志位氏は、現在の科学技術では放射性物資を無

### 提言のポイント

- ① 国の責任で放射能汚染の実態を正確かつ全面的に把握する調査を系統的に実施する
- ② 放射能汚染の規模にふさわしい除染を迅速にすすめる
- ③ 避難者への支援を抜本的に強化する
- ④ 内部被ばくを含めた被ばく線量調査をはじめ、健康管理をすすめる

毒化することはできないが、汚染された土壌を取り除くなど生活環境からできるだけ切り離すことは可能であり、「いま政治が非常に大きな力を注いで、被ばくを最大限低く抑える事に真剣に取り組む必要がある」と語りわけ、放射線感受性の強い子どもの健康を守ることは日本社会の緊急の重大課題だ」と強調。

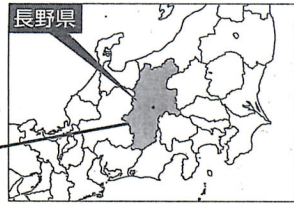
調査では、住居ごとの汚染マップの作成や、子どもが近づく場所、「ホットスポット」になりやすい場所の集中的調査を提起。最新鋭の検査機器を最大限確保して、食品検査体制を抜本的に強化するよう求めました。

除染では「緊急除染と大規模で長期にわたる除染(恒久的除染)の両面で国が全面的に責任をもって推進する必要がある」と強調しました。

また科学者や専門家、民間企業など知恵と力を総結集して、全面的な調査と除染を推進する「放射能調査・除染推進センター」(仮称)といった特別な体制を確立すること、現行法では想定されていない大規模で長期にわたる除染を行うための緊急の法整備を行う必要がある」と強調しました。



# 自然エネ 普及進めています



## 長野県の場合

「しんぶん赤旗」の8/21付日刊紙より  
"原発"に頼らなくても、エネルギー(電気)は  
大丈夫です。

### 市と住民が連携 太陽光パネル 着々と設置

企業・行政・金融機関の3者が連携し、太陽光パネルの設置を進めている飯田市を訪ねました。地産

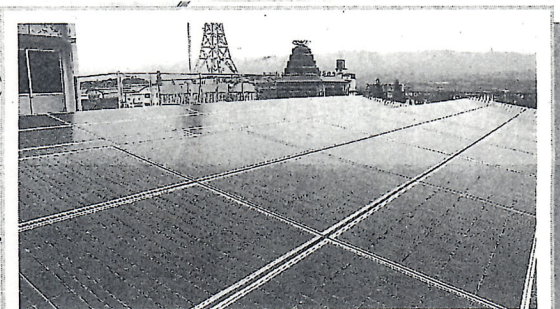
### 飯田市

私は、桐丘団地や赤羽台団地などの公共住宅の多い、赤羽西地域に、太陽光パネルなどを増やしたいと思います。～ながら～

市民が連携し取り組む、「おひさま0円システム」があります。そのシステムは、市の補助金、市民の出資金、金融機関の金融ノウハウなどを集め、「おひさまエネルギーファンド」をつくります。そのファンド(基金)を使って、200万円を超えるパネルを購入。「おひさま」が各家庭に太陽光の設置を進めています。このシステムをつかって、3

地産のエネルギーをつくらうと、2004年2月に生まれたNPO法人「南信州おひさま進歩」は現在、「おひさま進歩エネルギー株式会社(以下、「おひさま」として、再生可能エネルギーの普及に取り組んでいます。

・3キロワットの太陽光パネルを設置した場合、初期費用を0円におさえる代わりに、月1万9800円を9年間、「おひさま」に支払います。節電によって売電量を増やせば、月々の負担は、電力会社から電気を購入した料金と同程度になります。このシステムを使って普及できる設置箇所数は、年間で30カ所。2009年には26戸、10年には22戸に設置されました。「おひさま」は、公民館や保育園などの公用施設の屋根に太陽光パネルを設置。49カ所、最大出力337キロワットになりま



飯田市公民館の屋上では、最大出力8.8時限のパネルが設置され発電しています

す。04年5月に「おひさま」の太陽光パネルを設置した明星保育園(宮下明子園長)は、「おひさま」の力を保育につなげています。その一つが、発電量(日照量)に応じてランプが付く「さんぼちゃん」ランプです。保育士が子どもたちに「今日は、さんぼちゃん、いくつでしょーか?」と問いかけます。すると、子どもたちも体で感じたおひさま度をランプの個数で表現します。「今日は、みっつ」

「よったかと思うー」カーテンで隠した「さんぼちゃん」ランプ。「今日はよったか」と保育士さん。「家に帰ると、水出しっぱなしはいけないよ」と親に話す園児もいるんです」と主任保育士・山内ひろみさんはいいます。「通園のときにゴミを拾ってくる子どももいます。子どもたちに言い聞かせるのではなく、主体的に発見し、気付くことが増えています。これからも園だけでなく、地域の取り組みに広がってまいります」



飯田市



「さんぼちゃん」のランプの個数を数える園児たち―飯田市・明星保育園

飯田市の「おひさまエネルギー」も、一緒に調査し、学んではいかせたい。飯田市への視察が多いため、12月初旬～来春になりそうですが、市に申し入れたい。